



十字架上のキリストの  
最後の十七の言葉

ボクスワフ・ノヴァク 著



## 始めの祈り

主イエス・キリスト、あなたがいつもわたしたちに命の言葉を語ってくださること、特に、十字架から、ご自分の遺言のように尊い言葉を送ってくださったことを心から感謝いたします。

主よ、これからこの言葉に耳を傾け、それを黙想するわたしたちを祝福し、わたしたちの心に命と愛の霊である聖霊を遣わしてください。雨が大地を潤すように、聖霊がわたしたちの心を開き、準備させますように。そして、耕された良い土地に蒔かれた種が豊かな実を結ぶように、わたしたちの心に蒔かれたあなたの言葉が、わたしたちの内に根ざして、成長し、素晴らしい実りを生み出すことができるように、わたしたちがこの言葉に従い、それを生きるために必要な力をお与えください。アーメン。



## 1. 「父よ、彼らをお赦してください。」

「ほかにも、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。〔そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」〕人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。」ルカ 23:32-34

ローマの総督のピラトがイエスを裁きましたが、何の罪も見いだせませんでした。それにもかかわらず、イエスを十字架に付けるという残酷な死刑の判決を下しました。イエスは、そんな不正に対する報復を求めないし、ご自分を助けることも求めません。この不正を企てた人々のために父である神に取り成します。ご自分を苦しめ、十字架に付けた人々のために赦しを願います。

イエスを不正に裁いて、十字架に付けた人々は、イエスの愛を知りませんでした。彼らの心が閉じていたので、彼らは自分たちが一番求めていたもの、一生追求してきたものをイエスが与えていたということを見出すことができませんでした。イエスを死刑に定めることによって、彼らはイエスの愛を捨てました。けれども、イエスの愛は変わりません。彼らを愛し続けています。彼らのために神の赦しを願って祈ることによって、彼らが自分たちの心を開き、イエスの愛を見出し、それを受けることをイエスは今でも求めておられることを現します。

イエスは、神がすべての人を愛しておられるということを教えていました。神は、ご自分の愛を無視している人をも愛しておられます。ご自分の望みに逆らう人、ご自分の恵みを無駄使いをしている人さえ愛しておられます。イエスが、この世に来られたのは、人々を神と和解させるためです。愛を求めても、絶えずそれを拒んだり、滅ぼしたりする人を、絶えることのない愛の源である神と和解させるためです。イエスの祈りは、神ご自身の望みです。神は、わたしたちの最も大きな罪さえも赦し、ご自分の愛をわたしたちに与え、それを受けるようにと常に呼びかけておられるのです。今、父である神は、わたしたちの返事を待っておられます。



## 2. 「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる。」

「十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。」ルカ 23:39-43



イエスの隣に十字架に付けられた一人の犯罪人は、この死刑が自分の行いに対する正当な報いであるということを確認します。けれども自分が、死刑にされること、人々から、または神から見捨てられることが正しいことであると認めても、それを求めているのではありません。彼が行った悪事は、彼の心の望みを完全に打消すことができませんでした。受けている罰で納得していても、人々、または神とつながることを求めています。愛を求めています。彼の心には正義感や神に対する恐れも残っています。おそらく、そのためにイエスの祈りの言葉を耳にしたとき犯罪人は、イエスが不正に死刑に定められたメシア、救い主であると悟りました。一生涯、愛がないところで愛を探していたため、自分をはじめ、多くの人を傷つけてきました。やっと、自分の人生の最後の瞬間に、この意外なところで真の愛を見つけ出しました。このイエスとの出会いは自分にとって心の望みを満たす最後のチャンスです。今まで、数え切れないほど沢山のチャンスを無駄にしましたが、今自分の迫害者のために赦しを願うイエスの祈りの言葉によって励まされて、自ら憐れみを願います。

憐れみを願った犯罪人の回心において、イエスはご自分の祈りに対する父である神の応えを見出します。そして、回心したこの罪人に救いを、すなわち彼の心のすべての望みを満たすことを約束します。頑なな心を持ち、妬み、憎しみや怒りに満ちた人たちに囲まれたイエスにとって、犯罪人の回心は、大きな慰めと励ましになったことでしょう。なぜなら、イエスが失われた人を探し出すために、暗闇に生きた人を照らすために、または神から遠く離れた人を父である神のもとに導くためにこの世に来られたからです。この使命を果たすために自分の命を捧げました。イエスの働きと奉獻は、実りを結び始めます。そして、今日に至るまで実を結び続けています。自分の過ちや無力を認める人、イエスに向かって赦しと助けを求める人は誰でも、その実りに与ることができます。



3. 「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です。  
・・・見なさい。あなたの母です。」

「イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。」ヨハ19:25-27



残酷な受難を受ける息子の姿を見ることは、母マリアにとって想像もつかないほど大きな苦しみです。イエスに対する人々の怒りや敵意は、母にも向けられます。犯罪人として扱われている息子の恥は、母の恥でもあります。イエスの多くの弟子とは違いマリアは、この苦しみから決して逃げません。イエスが好評され、その栄光の時に彼のそばにいたように、皆がイエスを罪に定め、暗闇が支配している今もそばにいます。この苦しみの中にも、神の言葉に承諾し、すべての人の救いのために神のみ旨に従うという約束を守ります。息子への愛にも、神への愛にも忠実です。それによって、誰よりも強くイエスを力付け、イエスがご自分の使命を最後まで果たせるように彼を支えます。

苦しみの最中、世の未来が決まるこの時に、イエスはこの世に残る母のことを心配しています。そして、以前に主人を失い、今一人子の息子を失いつつある母をご自分の最も信頼できる弟子の世話に委ねます。同じように、イエスはわたしたちの弱さを知っていますので、わたしたちにご自分の母を与えてくださいます。わたしたちは、聖母マリアを自分の母として受け入れるなら、マリアは必ず自分の忠実な愛によってわたしたちを支え、特に愛に苦しみが伴い、愛に生きることが難しくなる時に力付けてくださいます。マリアの支えによって、わたしたちもイエスの愛する弟子に、すなわちイエスのように愛することのできる弟子、自分の生き方によって父である神ご自身の愛を現す弟子になることができます。



#### 4. 「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」

「さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。」マタ 27:45-47

誰かが本当に愛しているならば、どんな状態においても、すなわち、喜びの時も、悲しい時も愛する人と一緒にいたいと望みます。愛する人のそばにとどまるのが苦しみになっても、この人を離れません。イエスは、どんな時も父である神と共にいました。同じようにマリアもいつもイエスと共にいました。イエスは、父である神との交わりが特に親しくなっているということを実証するために、いつも神のことを「アッパ」つまり「愛する父」と呼びました。けれども、今他の人と同様に「神」という正式な呼び方を用います。ご自分の喜びであり、ご自分に対して敵意を持った人を含めてすべての人を愛するために必要な力を与えていたこの親しみを感じなくなっています。逆に、父である神が自分を見捨てたように感じます。父である神との親しい交わりが、最も大切な宝物としていたイエスにとって、神から見捨てられたように感じるということは、今まで味わってきたどんな苦しみよりも辛い苦しみになっているはずです。イエスは、大きな叫びによって、この激しい苦しみを現します。

罪を犯すことによって人間は、愛であり、命の与え主である神から離れています。罪の最終的な結果というのは、神のもとに戻れなくなり、神の愛を受け入れなくなるということです。それは、永遠に続き、何の希望もない孤独を意味します。イエスは、わたしたちをこのような罪の最終的な結果から守るために、罪に満ちたわたしたちの現実に入ってくださいました。神によって見捨てられたように感じるということは、イエスがわたしたちの罪の暗闇の最も暗いところ、最も孤独なところにおられるということの意味します。その中でも、神の愛と神の栄光を現し、わたしたちを神のもとに導くためにご自分の手を差し伸べてくださっています。



## 5. 「渴く。」

「この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。」ヨハ 19:28-29



イエスは、もうすでに六時間十字架に掛かっています。呼吸することは、益々難しくなってきた、死は近づいています。けれどもイエスは、もうすべてを語ったわけではありません。亡くなる前に、特に伝えたいことがあります。それは、自分の渇きのことです。死を前にしてイエスが何に渇いていて、何を求めていたのでしょうか。確かに、そんなに酷い尋問を受けた後にのどが渇いていたはずです。けれども、痛み止めになっていた飲み物を拒んだこの人、今までの苦しみをそんなに忍耐強く耐え忍んだこの人は、今のどの渇きを癒すために飲み物を要求したのでしょうか。受難の激しさを覚悟した上で、この苦しみを自由意志によって受けたこの人は、すべてが終わろうとしている今、この苦しみを和らげるように願うのでしょうか。

もう何回も十字架の死刑を執行した兵士たちは、きっとイエスと同じ刑罰を受けた他の人との違いがはっきりと見えたはずで、聖ペトロが書いている通りにイエスは「罪を犯したことがなく、その口には偽りがなかった。ののしられてもののしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。」（1ペト 2:22）おそらく、そのために一人の兵士は、哀れに感じたでしょう。そして、自分の渇きを癒すために持ってきた飲み物をこの無罪の人と分けて、イエスの苦しみを少しでも軽くしようとしています。兵士のこの哀れみ深い行動は、イエスのどの渇きを癒すよりも、人の愛に飢え渇いたイエスの望みを満たします。人間の愛こそがイエスが何よりも求めておられることであります。この愛だけがイエスの渇き、と同時に父である神ご自身の渇きを癒すことができます。





## 6. 「成し遂げられた。」

「イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。」ヨハ 19:30

「成し遂げられた」という言葉を語ることによって、イエスはご自分の使命を完全に果たしたことを宣言します。最初から最後まで、色々な妨げに逢っても、誘惑を受けたり、迫害されたりしたにも関わらず、イエスは神への愛と忠実を尽くし、受難や十字架上的の苦しみの中にも愛し続けてきました。イエスは、何の誘惑にも陥ることがなかったのは、神に対する愛がイエスの最も大事な宝物であり、しかも自分の命よりも大切なものであったからです。他の人と同じようにイエスは苦しみや死を恐れていました。けれども、この恐れはイエスに神の愛から離れることや、神の愛を裏切ることができませんでした。イエスは抱いていた恐れに左右されず、その奴隷でもありませんでした。なぜなら、イエスは神の愛があらゆる悪、あらゆる苦しみ、死よりも力強いものであると確信を持っていて、この愛にだけ希望をおいていたからです。

すべての人々は、愛によって、または愛のために創造されています。完全な愛以外に、すなわち創造主である神の愛以外に何も人の心の望みを満たすことができません。けれども、非常に多くの場合わたしたちは、自分の欲望の奴隷であり、簡単に色々な誘惑の被害者になってしまい、愛に生きることができません。わたしたちは、苦しみや死に対する恐れに奴隷でもあります。少しばかりの楽しみを得るために、または苦しみから逃避したり、慣れている生き方を守ったりするために、度々愛を裏切ることがあります。

イエスは、わたしたちをそのような奴隷状態から解放したいと望んでおられます。わたしたちをわたしたちの欲望や恐れから解放するためにイエスは神の愛の素晴らしさとその愛の力強さを示してください。もし、イエスとの出会いによって、この愛を体験することができるならば、さらにこの愛がわたしたちの最も大切な宝物になって、この愛があらゆる悪よりも、苦しみと死よりも力強いものであると信じるようになるならば、わたしたちは、イエスのように自由になって、どんな状況においても愛に生きることができるようになります。



## 7. 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」

「既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。」ルカ 23:44-48

イエスはご自分の最後の言葉を父である神に語りかけます。再び、神のことを「父」と呼びます。それは、前と同じように神との親しい関係に戻ったということを現します。父である神によって見捨てられたように感じて、実際に神はイエスを一度も離れることなく、いつもそばにいてくださいました。信頼に満ちたイエスはご自分の霊、ご自分の愛と命、ご自分自身のすべてを「愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働く」（ロマ 8:28）方のみ手に委ねます。イエスにとって、死は残酷なものでありながらも、滅びではなく、父のもとへの門であり、永遠に続く喜びと平和に満ちた父である神との愛の交わりに戻る道です。

自分の小さな安定を守り、他人を苦しめることによって手に入れたものを保つために、永遠の愛を与えるためにこの世に来られたイエスを殺すということは、人間の愚かさの頂点です。同時に、神の子イエスの殺害は、人間が犯した最も大きな罪です。この罪は、すべての人々の永遠の死、つまり、完全に神から離れ、孤独と絶望の内いつまでも生きるというような結果を生み出すはずでした。けれども、イエスはすべての人々のために赦しを願った上に、ご自分の霊を父である神のみ手に委ねたことによって、この罪をいけにえに変え、自分の苦しみを愛の奉獻に変えてくださいました。それ故に、イエスの死は、人類の神との縁を切るものではなく、逆に人類の神との和解を実現するものになり、聖ペトロが語っている通りにイエスの傷によってわたしたちが癒されました。（1ペト2:24）イエスは自分の愛と忠実によって、呪いと罰のしるしであった十字架を祝福と恵みのしるしに変え、死と憎しみのしるしであった十字架を命と愛のしるしに変えてくださいました。ですから、その十字架においてわたしたちの復活と永遠の命への希望が輝きます。



## 終わりの祈り

主イエス・キリスト、あなたご自身が体験されたような苦しみの中にも愛することが可能であるということを示してくださったこと、また、父である神の愛の素晴らしさとその力強さを現してくださったことを心から感謝いたします。

主よ、父である神の愛が最も重要な宝物であり、あらゆる悪や苦しみ、または死よりも力強いものであるということが見出せるように、わたしたちの目を開いてください。また、この愛を受けることができるように、わたしたちの心を開いてください。わたしたちを欲望と恐れ of 支配から解放し、わたしたちはどんな状況においても、父である神の愛に忠実に生き、最後にあなたのようにわたしたちの霊を御父のみ手に委ね、いつまでも父と、父と一致しているすべての人と共に、愛の交わりのうちに生きることができるように、わたしたち一人ひとりを絶えず導いてください。アーメン。





カトリック南山教会

〒466-0835名古屋市昭和区南山町1

Tel: 052-831-9131

Fax: 052-836-2253

[www.nanzankyokai.net](http://www.nanzankyokai.net)